

地域おこし協力隊



■町に新たな風が吹く

「地域おこし協力隊」とは、地方での生活を望む都市部の人たちを迎え入れる制度です。地域の課題解決のため、分野での活動に携わってもらい、ことにより、地域力の創造を図ることを目的としています。

町では、平成27年度からこの制度を活用し、これまで8人の隊員を迎え入れました。隊員の活動は期限付きで、3年間活動することができま

す。現在、茨城町地域おこし協力隊として活動している隊員は3人。都市部などを離れ、町での生活を送ることになった隊員には、町外から来たこととで分かる地域の良さなど新たな視点も含めた活躍が期待されます。

様々な思いを胸に、茨城町で暮らすことを選んだ隊員たち。今回の特集では、現在活動している3人の隊員を紹介



隊員がSNS公式アカウントで情報を発信しています。

茨城町地域おこし協力隊facebook

<https://www.facebook.com/townibaraki/>



地域おこし協力隊の関わるイベントや、3人の活動情報、隊員が茨城町で感じたことなどを発信しています。

茨城町地域おこし協力隊twitter

<https://twitter.com/ibarakiokoshi/>



イベント時の状況をつぶやいたり、Koco・deの休館のお知らせなど、タイムリーな情報を発信しています。

【問合せ先】町民協働課 地域おこし協力隊 ☎029-291-8802（直通）

農業を軸に町の活性化に貢献したい

夢は、小麦畑の観光地化

川島 裕樹さん

千葉県千葉市出身

20代前半まで、海外や日本各地を旅する。その後、千葉県の農家レストランで2年間農業研修をし、平成29年6月に茨城町地域おこし協力隊に着任。



■旅人から農家を目指して

定住と就農を目的に茨城町にきて着任当初の6月。黄金色の小麦畑が広がる景色に感動したことがきっかけで、今は小麦農家を目指しています。

着任から1年半、これまで農業を軸に活動してきました。その一つが茨城町の若手農家2人と共に企画している「HAERU（はえる）マーケット」。思い出の詰まった小学校跡地に「もう一度集まる機会を作ること」と「農業や仕事の魅力発信の場をつくること」を目的としたマーケットです。主に農家直売野菜や飲食物の販売、クラフト・ワークショップ、ステージ演出など町内外から20店舗を超える出店者の方々に協力してもらい、これまで4か所の旧小学校で開催しました。

■「オーガニックマルシェカフェ・ひ・ら・く」をオープン

昨年5月から毎週金・土曜限定で「オーガニックマルシェ

カフェ・ひ・ら・く」というカフェ

を下土師（下土師1821）にオープン。スタッフが育てた自然栽培野菜の美味しさや栽培の楽しさを伝えたいという思いから、茨城町産小麦100%の釜焼きピザと自然栽培で育てた野菜を使った料理を提供しています。店内の装飾などには、カフェスペースを貸りているNPO環くWAさんの保全活動から出た地域資源を活用しています。敷地内には新たにドッグランを開設したので、多くの方に足を運んでいただけたら幸いです。これからは、町内の遊休農地を借り受け、ピザに使用している強力粉の原料となる小麦の栽培面積を広げ商品化し、栽培から製粉・販売をする小麦商社になり、全国のパン屋やピザ屋へ卸せるようにしたいと思っています。そして将来は、感動した茨城町の小麦の景色を観光地にすることを目標に日々活動していきます。

- ①「オーガニックマルシェカフェ・ひ・ら・く」の人気メニューは旬の野菜を使ったピザ「ネモネーモ」。
- ②気さくなスタッフでお店は和気あいあいとした雰囲気。



オーガニックマルシェひ・ら・く

▶ 営業日時
毎週金・土曜日
午前11時～午後6時

facebook

